

# 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 熊西 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

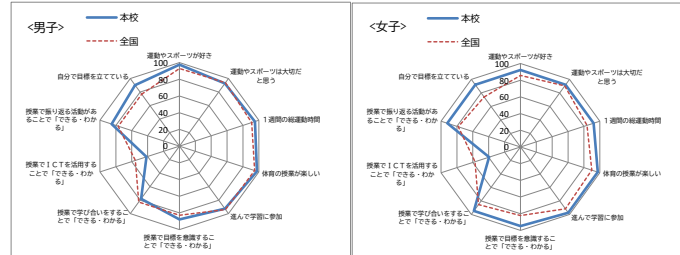
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
本市	16.30	19.17	34.49	40.75	49.29	9.48	152.47	21.39	53.38
本校全国平均以上の種目		○	○			○			

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
本市	16.35	18.36	38.88	38.78	39.26	9.70	145.97	13.51	55.18
本校全国平均以上の種目			○	○	○	○		○	○

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



#### 質問紙調査の結果分析

男女ともに多くの項目で全国平均と同等か、上回る結果となった。中でも「自分で目標を立てている」の項目について大きく上回った。単元ごとに学習記録カードを準備し、振り返り課題を明らかにしたりする活動の時間を設定した成果だと考える。一方で、授業でのICTの活用については全国平均を大きく下回っている。OIGAI機能を活用した授業づくりが十分な効果が期待できる。この点については、児童指導員のカリキュラムの活用で、明確な撮影が難しいため使い辛さがあり活用が滞っていないという問題点もある。運動の参考になる動画を視聴したり、効果的な体の動かし方を調べたりするなど撮影以外の活用方法を試すようにする。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

本校では、本年度は「運動やスポーツが好き」について肯定的な回答をした児童の割合が90%以上を目指した。本調査結果から達成できたと考える。これまでの取組の継続に加え、体育館を中心に効果的な指導法について情報共有を行い、児童の実態に応じて学び合いやICTの活用を取り入れ「わかる・できる」授業を目指す。一方、実技調査の結果、男女とも「握力」と「立ち幅とび」に課題が見られる。体育の準備運動に、各種目に必要な力を高める運動を取り入れ継続的に取り組んだり、体力テストの練習期間に教師だけでなく児童にも「握力」と「立ち幅とび」に課題があることを伝え意識付けを繰り返す。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校)取組)

運動習慣等に関する調査から、体を動かすことの楽しさや大切さを味わうことについて「新しいスポーツに取り組みたい」という意識が低いことが明らかとなった。課題解決のために、全校集会などの児童会活動を通し、モルックやボウチャーなど多くの本校児童にとって新しい体験となるスポーツに出会う機会を作るよう、集落運営委員会の担当者や検討し、必要な環境整備をすすめていく。